

## 天安門事件後の日本学生の中国認識

(お茶の水女子大大学院) 小浜正子 (中国語通訳) 釜谷幸子

### はじめに

89年は激動の年であった。中国では民主化運動が、予想をはるかに超えて盛り上がり、そして6月4日の悲劇的な弾圧で幕を閉じた。天安門広場でハンストによって民主化を訴える学生の姿や、人民解放軍による武力弾圧の様子は、世界中から乗り込んだ報道陣によって日本にもリアルタイムで伝えられ、われわれに大きな衝撃を与えた。78年の中共11期3中全会以来10年にわたり、中国では、「改革・開放」政策が進められてきたが、今後、政府の同政策堅持の表明にも拘らず、それが蛇行を余儀なくされるのは必至である。3中全会と時期を同じくして日中平和友好条約を締結し、紆余曲折を含みながらも拡大しつつあった日中関係のこれからの展開も予断を許さない。一連の動きの中で、われわれの中国観もかなりの修正を迫られたようである。

われわれは、日中平和友好条約締結後10年を経て日中の交流がすっかり定着した1988年10～11月に、学生の中国認識のあり方を探った「アンケート」（調査票）調査をお茶の水女子大学と法政大学で行った（以下88年調査と呼ぶ）。これは、A 中国に対する関心、B 日中戦争、C 中国現代史、D 日中関係についての約40項目からなり、78年にお茶の水女子大学で行われていた同様の調査（以下78年調査と呼ぶ）の追跡調査として実施したものである<sup>(1)</sup>。しかし、その後の一年間で学生の中国認識にはかなりの変化がおき、もはやそのデータも昨日のものとなったと思われた。それゆえ、激動の89年を経て中国観がどの様に変化したかを明らかにするため、同年秋に再調査を実施（以下

89年調査と呼ぶ）した。89年調査は、88年調査と同内容のものと民主化運動関係のものなど17項目よりなり、選択回答式（ただし一部自由記入を含む）で11月6～18日——この間にベルリンの壁が開いた——に実施した。兩年とも、お茶の水女子大学（以下お茶大と略）では用紙を学科・食堂などで配布して記入してもらい、88年には全学学生の30.3%である583人、89年には全学学生の14.1%にあたる284人から回答を得た<sup>(2)</sup>。法政大学では、政治学部政治学科の2人の教員の協力を得て各々の授業時間（特に中国を扱ったものではない）内に用紙を配布して記入してもらい、回答者数は88年291人、89年299人であった<sup>(3)</sup>。

一口に学生の中国認識といっても対象となる集団によって違いうらうから、この結果が日本の学生全体を代表しているとは一概に言えないかもしれない。しかし、この調査からお茶大の学生の中国認識をかなりの程度考察できるだろうし、ふたつの対象集団のそれが一年前と比べてどう変化しているかについては比較可能だと考えている。

### 1. 88年から89年へ——中国観の比較

調査の単純集計の結果は表の通りである。88年調査の結果は、89年調査と同じ項目のみ表に掲げ、それ以外の必要なデータは別に言及した<sup>(4)</sup>。両大学の結果を比べてみると、法政大学政治学受講者〔以下、法政（政治学）と略〕では[2] 関心のある分野に「政治」が特に多い、などの専攻科目によると思われる違いがいくつかみられるが、それ以外は概ね同じ傾向を示している。項目間の関連についても、関連の強弱に差がみられることがあるが、大きな傾向はほぼ共通している。以下、

(2)

## 学生の中国認識に関するアンケート調査

(1988年10～11月, 1989年11月) 実施

	お茶大 (89年)	同 (88年)	法政大 (89年)	同 (88年)
全体数	284(人)	583(人)	299(人)	291(人)
[1] 中国に関心がありますか。				
(a) とても関心がある	50(17.6%)	114(19.6%)	110(36.8%)	77(26.5%)
(b) 少し関心がある	205(72.2%)	381(65.4%)	170(56.9%)	198(68.0%)
(c) 関心はない	28(9.9%)	87(14.9%)	19(6.4%)	16(5.5%)

[2] 前問で(a), (b)の場合, その分野は。(複数回答可。そのうち最も関心あるものに◎を。

— [ ] 内の数字は◎を付けた人数

(a) 政治	109(38.4%)[11]	120(20.6%)[13]	208(69.6%)[65]	158(54.3%)[27]
(b) 経済	36(12.7%)[1]	54(9.3%)[6]	96(32.1%)[9]	90(30.9%)[11]
(c) 社会	88(31.0%)[11]	167(28.6%)[28]	124(41.5%)[11]	125(43.0%)[19]
(d) 歴史	136(47.9%)[19]	250(42.9%)[45]	130(43.5%)[25]	133(45.7%)[24]
(e) 文学	60(21.1%)[3]	110(18.9%)[7]	25(8.4%)[1]	28(9.6%)[2]
(f) 言語	48(16.9%)[6]	66(11.3%)[7]	26(8.7%)[1]	28(9.6%)[3]
(g) 美術・音楽	63(22.2%)[4]	156(26.8%)[16]	30(10.0%)[2]	31(10.7%)[7]
(h) 劇・映画	25(8.8%)[3]	48(8.2%)[1]	19(6.4%)[1]	16(5.5%)[1]
(i) 古代思想	62(21.8%)[8]	87(14.9%)[5]	44(14.7%)[8]	31(10.7%)[3]
(j) 社会主義・毛沢東思想	34(12.0%)[4]	19(3.3%)[1]	66(22.1%)[10]	28(9.6%)[0]
(k) シルクロード・西域の文化	137(48.2%)[36]	244(41.9%)[44]	87(29.1%)[15]	71(24.4%)[13]
(l) 料理	98(34.5%)[10]	147(25.2%)[3]	64(21.4%)[5]	62(21.3%)[1]
(m) その他 ( )	9(3.5%)[3]	26(4.5%)[0]	11(3.7%)[0]	13(4.5%)[2]

※但し, 88年調査における(j)は「毛沢東思想」であった。

[3] 中国に関するあなたのイメージとして最も近いものはどれですか。

(a) 社会主義国	51(18.0%)	32(5.5%)	50(16.7%)	37(12.7%)
(b) 発展途上国	7(2.7%)	13(2.2%)	12(4.0%)	23(7.9%)
(c) 多民族国家	21(7.4%)	15(2.6%)	11(3.7%)	25(8.6%)
(d) 広大な国	67(23.6%)	230(39.5%)	52(17.4%)	76(26.1%)
(e) 豊かな伝統を有する国	56(19.7%)	126(21.6%)	43(14.4%)	53(18.2%)
(f) 人口の多い国	24(9.2%)	65(11.1%)	33(11.0%)	34(11.7%)
(g) 一党独裁の国	12(4.2%)	—	43(14.4%)	—
(h) その他 ( )	9(3.2%)	11(1.9%)	12(4.0%)	15(5.2%)

	お茶大 (89年)	同 (88年)	法政大 (89年)	同 (88年)
[4] あなたは中国が好きですか。				
(a)大好き	11( 3.9%)	31( 5.3%)	14( 4.7%)	14( 4.8%)
(b)好きな国の一つ	91(32.0%)	223(38.3%)	95(31.8%)	127(43.6%)
(c)どちらでもない	165(58.1%)	316(54.2%)	164(54.8%)	145(49.8%)
(d)嫌いな国の一つ	15( 5.3%)	7( 1.2%)	22( 7.4%)	3( 1.0%)
(e)大嫌い	2( 0.8%)	2( 0.3%)	3( 1.0%)	2( 0.7%)
[5] 中国に行ってみたいと思いますか。				
(a)ぜひ行ってみたい	72(25.4%)		97(32.4%)	
(b)できれば行きたい	170(59.9%)		165(55.2%)	
(c)行きたくない	38(13.4%)		32(10.7%)	
[6] 次のうち戦前、日本の植民地だったと思う地域すべてに○をつけて下さい。				
☆ (a)台湾	168(59.2%)		210(70.2%)	
(b)香港	11( 3.9%)		25( 8.4%)	
☆ (c)中国東北地方 (旧「満州」地域)	268(94.4%)		277(92.6%)	
(d)福建省	54(19.0%)		65(21.7%)	
(e) (a)～(d) 以外の中国の一部	24( 8.5%)		38(12.7%)	
(f) (a)～(d) 以外の中国の全部	0( 0 %)		1( 0.3%)	
☆ (g)朝鮮北部	131(46.1%)		200(66.9%)	
☆ (h)朝鮮南部	180(63.4%)		234(78.3%)	
[7] 現在の中華人民共和国首相は誰だと思えますか。				
(a)鄧小平	43(15.1%)	172(29.5%)	21( 7.0%)	69(23.7%)
(b)楊尚昆	7( 2.5%)	—	17( 5.7%)	—
(c)胡耀邦	7( 2.7%)	34( 5.8%)	5( 1.7%)	21( 7.2%)
(d)趙紫陽	10( 3.5%)	84(14.4%)	10( 3.3%)	97(33.3%)
☆ (e)李鵬	148(52.1%)	28( 4.8%)	196(65.6%)	54(18.6%)
(f)江沢民	9( 3.5%)	—	29( 9.7%)	—
(g)知らない	53(18.7%)	221(39.7%)	16( 5.4%)	40(13.7%)
	※華国鋒	5( 0.8%)	※華国鋒	4( 1.4%)
[8] 現在の中国共産党総書記を⑦の選択肢の中から選んで下さい。				
(a)鄧小平	58(20.4%)		37(12.4%)	
(b)楊尚昆	14( 5.4%)		32(10.7%)	
(c)胡耀邦	39(13.7%)		36(12.0%)	
(d)趙紫陽	25( 8.8%)		26( 8.7%)	
(e)李鵬	11( 3.9%)		16( 5.4%)	
☆ (f)江沢民	67(23.6%)		129(43.1%)	
(g)知らない	48(16.9%)		13( 4.3%)	

(4)

[9] 今年の春の中国の学生の民主化要求運動についてどう思いますか。

	お茶大 (89年)	法政大 (89年)
(a) 断然支持する。	120(42.3%)	143(47.8%)
(b) 気持ちはわかるが方法がまずかった。	122(43.0%)	97(32.4%)
(c) 民主化の要求など無意味だ	1( 0.4%)	13( 4.3%)
(d) ついていけない	4( 1.5%)	6( 2.0%)
(e) その他 ( )	30(10.6%)	33(11.0%)

[10] 6月4日の「天安門事件」をどう思いますか。

(a) 国家権力として当然だ。	1( 0.4%)	6( 2.0%)
(b) 平和的民主化運動への武力弾圧はもってのほかだ	210(73.9%)	214(71.6%)
(c) 学生のやり方に問題があった	19( 6.7%)	15( 5.0%)
(d) 知らない	0( 0%)	1( 0.3%)
(e) 興味ない	9( 3.2%)	4( 1.3%)
(f) あきれた	19( 6.7%)	28( 9.4%)
(g) その他 ( )	17( 6.0%)	20( 6.7%)

[11] 現時点では日本政府は中国政府に対してどんな態度でのぞむべきだと思いますか。

(a) 民主政体樹立のため積極的に学生を支援する	21( 8.1%)	20( 6.7%)
(b) 弾圧への抗議のため制裁措置をとる	95(33.5%)	109(36.5%)
(c) 日中の歴史的関係をふまえ内政干渉的なことは慎む	123(43.3%)	107(35.8%)
(d) これ以上の混乱を避けるため借款等のテコ入れをする	11( 3.9%)	26( 8.7%)
(e) その他 ( )	20( 7.0%)	23( 7.7%)

[12] 中国政府によれば経済改革は今後も続行するということですが、四つ（農業・工業・国防・科学・技術）の近代化の展望をどう思いますか。

	お茶大 (89年)	同 (88年)	法政大 (89年)	同 (88年)
(a) 速やかに実現	1( 0.4%)	2( 0.8%)	2( 0.7%)	0( 0%)
(b) 徐々に実現	109(38.4%)	139(53.5%)	89(29.8%)	73(47.7%)
(c) 非常に困難	119(41.9%)	34(13.1%)	161(53.8%)	42(27.5%)
(d) 現実には不可能	5( 1.8%)	3( 1.2%)	20( 6.7%)	5( 3.3%)
(e) わからない	46(16.2%)	82(31.5%)	19( 6.4%)	31(20.3%)
(f) その他 ( )	2( 0.8%)	0( 0%)	4( 1.3%)	2( 1.3%)

※88年は「四つの近代化」を知っている者のみ回答した。全回答数はお茶大 260人、法政大 153人。

[13] 今後の中国の民主化（政治の近代化）の展望をどう思いますか。

(a) 速やかに実現	0( 0%)	0( 0%)
(b) 徐々に実現	59(20.8%)	48(16.1%)
(c) 現政権下では不可能	125(44.0%)	112(37.5%)
(d) 現体制下では不可能	87(30.6%)	122(40.8%)
(e) 中国では不可能	4( 1.5%)	13( 4.3%)

	お茶大 (89年)	同 (88年)	法政大 (89年)	同 (88年)
[14]民主化運動に始まる一連の動きにより、あなたの <u>中国観</u> は変わりましたか。				
(a)変わった	54(19.0%)		84(28.1%)	
(b)変わらなかった	101(35.6%)		109(36.5%)	
(c)どちらとも言えない	127(44.7%)		101(33.8%)	
※ (a)と答えた人にはどう変わったかを書いてもらった。				

[15]日中関係は今後どのような分野で発展させていくべきだと思いますか。

	お茶大 (89年)	同 (88年)	法政大 (89年)	同 (88年)
(a)政治	95(33.5%)	130(22.3%)	98(32.8%)	75(25.8%)
(b)経済	157(55.3%)	247(42.4%)	164(54.8%)	161(55.3%)
(c)学術・文化・芸術	178(62.7%)	学術 120(20.6%) 文化・芸術 285(48.9%)	66(55.5%)	学術 52(17.9%) 文化・芸術 110(37.8%)
(d)スポーツ	76(26.8%)	—	105(35.1%)	—
(e)技術	97(34.2%)	—	104(34.8%)	—
(f)このままでよい	16( 5.6%)	27( 4.6%)	21( 7.0%)	12( 4.1%)
(g)発展させる必要はない	1( 0.4%)	3( 0.5%)	6( 2.0%)	5( 1.7%)
(h)その他 ( )	6( 2.1%)	20( 3.4%)	8( 2.7%)	13( 4.5%)

[16]対中投資の展望につきどのように思いますか。

	お茶大 (89年)	同 (88年)	法政大 (89年)	同 (88年)
(a)将来性が非常に大きい	26( 9.2%)	118(20.2%)	63(21.1%)	84(28.9%)
(b)少しは将来性がある	91(32.0%)	151(25.9%)	96(32.1%)	76(26.1%)
(c)特に期待はしない	113(39.8%)	119(20.4%)	85(28.4%)	54(18.6%)
(d)むしろ悲観的	9( 3.5%)	15( 2.6%)	23( 7.7%)	12( 4.1%)
(e)大いに悲観的	1( 0.4%)	2( 0.3%)	4( 1.3%)	5( 1.7%)
(f)わからない	43(15.1%)	154(26.4%)	24( 8.0%)	53(18.2%)

[17]出稼ぎ目的で日本へ来る中国人が増加していますが、外国人労働力の導入についてあなたの考えに最も近いものはどれですか。

	お茶大 (89年)	法政大 (89年)
(a)出稼ぎ希望者と雇用希望者があるのだから受け入れればよい	96(33.8%)	88(29.4%)
(b)労働条件が低下するので外国人労働力は受け入れるべきでない	4( 1.4%)	8( 2.7%)
(c)日本人が敬遠する重労働・単純労働に導入すればよい	7( 2.7%)	16( 5.4%)
(d)専門技術者は受け入れてもよいが、単純労働力は受け入れるべきでない	26( 9.2%)	28( 9.4%)
(e)外国人労働者が増えると様々な問題が起こるので受け入れるべきでない	31(10.9%)	35(11.7%)
(f)国際世論を考慮して受け入れるべきだ	74(26.1%)	59(19.7%)
(g)その他 ( )	37(13.0%)	44(14.7%)

(6)

議論の煩雑さを避けるため、お茶大の結果について論じ、法政（政治学）の結果について述べる必要がある場合には註などで記述した。

88年調査では、学生の中国に対する[1] 関心はかなり高く、また[4] 好き嫌いについては、好きに属するものは4割以上、嫌いに属するものはわずかに2%以下で、中国に対する非常に高い好感がみられた。中国の[3] イメージとしては「広大な国」と「豊かな伝統を有する国」と答えたものが多く、中国に関心が「とてもある」「少しある」とした学生に[2] 関心のある分野を尋ねると、「歴史」「シルクロード・西域の文化」が多く、「社会」「美術・音楽」「料理」がそれに続く。この「歴史」については、関心のある時代を問う項目でアヘン戦争以前と最近10年間に関心が集中していることから、前近代の歴史だと考えられる<sup>(5)</sup>。また、中国の進めている[12]「4つの近代化」について、その言葉を知っているものは調査対象のほぼ半分だったが、その展望については知っている学生の5割強が「徐々に実現する」としておりかなり明るい見通しを持っている。また、[15]今後の日中関係は「経済」「文化・芸術」を中心としてほとんどが発展させるべきだとしている。[16]対中投資の展望については「将来性が非常に大きい」と「少しは期待が持てる」で約半数を占めており、比較的高い期待感がみられた。また、日中間の懸案事項であった教科書問題については9割以上の学生が知っているが、これに対する中国側の反発については「当然の反応だ」と「中国側の立場は理解できる」とで約8割を占め、中国（政府）に対して共感する態度が伺えた<sup>(6)</sup>。

以上のように中国に好意的な88年調査の結果に対して、89年秋にはかなりの変化——中国観の悪化——が起こっていることを予想していた。

調査の結果、一年前と比べて変化したのは次のような点である。

まず、[1]中国に対して「関心はない」学生が

減少している。また、[7]中国の首相が誰かを知っている学生が、李鵬の首相就任半年後に実施した88年調査よりぐっと増加し、[8]中国共産党の総書記（江沢民）についても、それなりに知られている。これは一連の事態が広く学生の関心を集めたことによると考えられる。これと関連して、[2] 関心のある分野で「政治」「社会主義・毛沢東思想」（88年の選択肢は「毛沢東思想」）、[3] イメージでは、「社会主義国」が増加した<sup>(7)</sup>。また、[12]4つの近代化と[16]対中投資の展望については、厳しい評価をするものが増えた。

学生自身がどの様に中国観が変わった、あるいは変わらなかったと考えているかを見るため、[14]「中国観に変化がありましたか」という項目を設け、「ある」と答えたものには具体的に記入してもらった。「ある」としたのは2割弱である。変化の内容としては、プラスの方向のものとして、学生や市民が社会を変革しようとして行動したことに対する驚きや共感を表すものが一定数ある。逆にマイナス方向のものでは運動への弾圧を見て政府・党の独裁的・強権的性格を指摘し、失望感を表したり、怖い国・暗い国と思うようになったというものなどであり、こちらの方が数はかなり多い。また、事件の前は中国に民主化を要求しなければならない状況があるとは知らず、いざ民主化運動が勃発して認識を新たにしたとする学生も何名かいた。民主主義の重要性を再認したとするもの、中国の独自性を知ったとするものもあった。逆に、[14]中国観が「変わらなかった」とするものは3割強である。たしかに他の項目を見ても変化の大きくない部分はかなりあった。

変化の少なかったものとしては、まず、[4] 好き嫌いについては、幾分「嫌い」の方向に動いているものの、ドラスティックな変化は見られない。78年調査では、同じ問いに対して「大好き」1.8%、「好きな国のひとつ」20.9%、「どちらでもない」66.9%、「嫌いな国のひとつ」9.0%、「大嫌い」

0.7%であった。88年までに中国に対する好感はずいぶん高まっていたのだが、過去10年間に培われた好感は、激動の1年を経てもそう低下はしなかったわけである。中国の[3] イメージとしては、「社会主義国」を選んだものが増えているが、1位を占めているのは相変わらず「広大な国」であり、「豊かな伝統」を選んだ学生も「社会主義国」を上回る。そして[2] 関心のある分野では「政治」が増えているも、相変わらず1・2位は「シルクロード・西域の文化」「歴史」であった。また、[15] 日中関係についても、やはり今後も発展させるべきだと考えている学生がほとんどで、「このままでよい」「発展させる必要はない」はわずかに増えているものの合計1割にも満たなかった。

以上より、日中の交流の増大の中でつくられた中国観は、中国の民主化運動とそれへの弾圧を目の当たりにしても、そう簡単には変化しないほど定着したものとなっていることがわかる。では、こうした変わらぬ中国像とはどんなものか。次に項目間のクロス集計を参照しながらさらに検討してみよう。

## 2. 変わらぬ中国像——中国への特殊な思い入れ

前述のように、中国に対する関心、好感はともにかなり高いものがあった。この[1] 関心と[4] 好き嫌いとは関連が見いだせる。即ち、中国に関心の高い学生には中国が好きで、中国が好きで、中国に関心の高い学生には中国に高い関心を示すものが多い。逆に中国が嫌いな学生は中国に対する関心が低く、関心の低い学生には中国嫌が多い<sup>(8)</sup>。中国が[4] 好きな学生についてみると、[3] 中国のイメージでは「豊かな伝統」を選ぶ頻度が高く、「社会主義国」「発展途上国」は低く、[2] 関心のある分野では「シルクロード・西域の文化」「歴史」の頻度が高い<sup>(9)</sup> [表1. また法政（政治学）についての表1'も参照せられたい]。[1] 関

表1

		[3] イメージ									
[4]		a	b	c	d	e	f	g	h	無効	計
好き	a+b	11	1	8	28	28	8	1	4	13	102
	c	36	4	13	37	27	15	8	2	23	165
嫌い	d+e	4	2	0	2	1	1	3	3	1	17
	計	51	7	21	67	56	24	12	9	37	284

89年調査（お茶大）

表1

		[3] イメージ									
[4]		a	b	c	d	e	f	g	h	無効	計
好き	a+b	12	3	5	24	27	6	15	3	14	109
	c	35	5	6	25	16	20	25	7	25	164
嫌い	d+e	3	4	0	3	0	7	3	2	3	25
	無効	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	計	50	12	11	52	43	33	43	12	43	299

89年調査（法政大）

心の高い学生は、[3] イメージで「広大な国」「豊かな伝統」の頻度が高く「人口の多い国」は低い<sup>(10)</sup>。逆に中国に[1] 関心のない学生では、「社会主義国」を選ぶ頻度が高く、「豊かな伝統」が低い<sup>(11)</sup>。中国が[4] 嫌いな学生の絶対数は少ないが、88年89年の両大学の結果をとおしてこの学生では「人口の多い国」「発展途上国」の頻度が高く、「広大な国」は低くて「豊かな伝統」を選んだ学生は1名のみである。

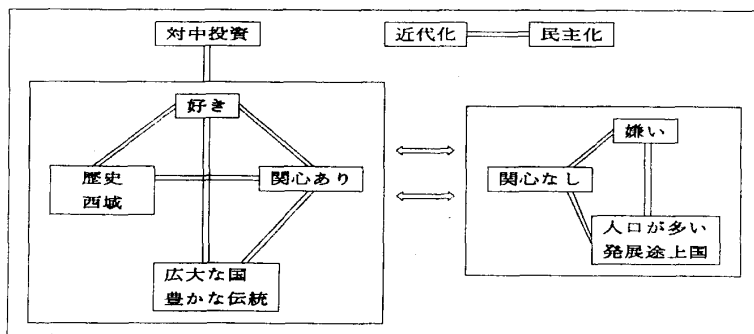
以上より、「中国が好き・高い関心・広大な、豊かな伝統をもつ国のイメージ・歴史やシルクロードへの関心」の間には相互に親和性があり（このグループが多数派を形成する）、逆に「中国が嫌い・関心もない・人口の多い、社会主義の、発展途上国のイメージ」の間にも親和性がある（こちらは少数派である）ことがわかる。別の言い方をすれば、関心を引き好感の持てるのは、豊かな伝統を持つ広大な中国、興味を引き付けるのはその歴史やシルクロードであり、関心の持てない嫌いな中国とは、人の多い遅れた社会主義中国だということになる。

このような悠久の歴史をたたえた広大な中国へ

(8)

の関心と好感は、東洋文明の母国中国への憧れとでもいう言い方が出来るだろう。72年の日中国交回復以後、洪水のように流れ込んでくるようになった中国情報は、こうした中国観を持つ学生を育てたわけである<sup>(12)</sup>。この点、NHKの「シルクロード」「黄河」のシリーズの果たした役割などには絶大なものがあつたのではなかろうか。注意すべきは、こうした「東洋文明の母国」的な中国への関心は、実際に中国のモノや人と触れ合つて起こつたものというよりは、むしろまだ見ぬ中国に対して一方的に膨らんだ関心という性格の強いものであることである。そしてこのような過剰な期待をかき立てた中国が、現実には、遅れた、やたら人の多いところであることを知つたとき、反作用としての嫌悪感が現れるのではないか。こうした関

項目間の関連 89年調査(お茶大)



心のあり方は、「中国への特殊な思い入れ」とでもいべき情緒的なものである。このような心情は、ひょっとしたら、母なる東洋文明に憧れながらも西欧的近代化に邁進する日本人のアンビバレントな感情のひとつの表現形態かもしれない。

88年調査の結果を見て、1950年代に学生だったある人は「中国のイメージとして『社会主義国』という答が少ないのにびっくりした」と感想を述べてくれたが、現代学生の中国イメージは、戦後ある時期まで支配的だった「社会主義中国」イメージとはかなり異なつたものである。中国が社会主義国となつたことへの驚きから出発した戦後日本の中国観は、よくもあしくもそれが社会主義国であること——左派的な思想を持った学生には社会主義の理想を実現しつつある国であり、右派的な

雰囲気の中にいる学生には共産主義への恐れと反感——のイメージが圧倒的であつたように思われる。「社会主義の先進国」中国への関心もまた、まだ見ぬ中国への憧れの一つであろうが、そのように中国をまず社会主義のイメージで捉え、それに特殊な感情——シンパシーであれアレルギーであれ——を抱くという反応が急速に小さくなつていったのは、おそらく72年の日中国交回復前後の中国ブームを画期としているのだろう。80年代の終末に中国の[3] イメージで「社会主義国」を選んだ学生についてみると、むしろここでは中国に[1] 関心の低い学生の頻度が高くなつている。また、「社会主義国」イメージを持つ学生には中国が「嫌い」の頻度がやや高いが、「社会主義国」イメージを持つ学生のうち中国を「好き」とする

ものは「嫌い」とするものより絶対数は多い。89年には「社会主義国」イメージを選ぶ学生の数が88年より増えた。88年と89年とを較べて、この集団の中国に対する[4] 好き嫌いに大きな変化はないが、[1] 関心が「ない」の頻度は89年の方がより高くなつている<sup>(13)</sup>。ここでは、中国の一連の事件

を経、東欧諸国の変革のニュースに接しても、社会主義観に大きな変化はないようにみえる。89年には「社会主義の失敗」が声高に言われたが、現代の学生はとうから社会主義への憧れなど持つてはいなかつたので、いまさら幻滅のしようもないということか。89年調査では中国や東欧の事態を社会主義のイデオロギーより一党独裁体制による問題として捉える学生もあるのではないかと考え、新たに[4] イメージに「一党独裁の国」という選択肢を設けた。しかしこれを選んだものは5%以下しかなかつた。この集団の中国への好感度[4]は低い<sup>(14)</sup>。

さて、日中国交回復以後に育つた現代の学生には「東洋文明の母国への憧れ」的な中国観が支配的だつたわけだが、これは明治以来戦前まで続い



ていた中国観と共通したものを持っていよう。しかし、現代の日本人の「中国に対する特殊な思い入れ」は、日本が中国に対して侵略戦争を行ったことへの負い目によって、さらに重層化したものになっているように思われる。88年調査によると、日中戦争を「日本の帝国主義的侵略」と考える学生は約7割であり、また、「南京大虐殺」「三光作戦」「抗日民族統一戦線」などの語句は78年よりよく知られるようになっている<sup>(15)</sup>。日本が中国に対して侵略戦争を行ったという認識は、広く学生に定着しているといつてよい。この点でも「中国は日本にとって特別な国」なのである。

では、他のアジア諸地域に対する日本の侵略についても、その認識は定着しているのだろうか。[6]は戦前の日本の植民地はどこかの知識を問う項目である。これは、88年調査の結果から、72年の日中国交回復＝台湾との国交断絶より後に育った学生は台湾についての知識が少なすぎるように思われたので、それを確認するために設けたものである。結果は、中国東北地方（旧満州）に○をつけたものは両大学で9割を超えているのに対し、台湾はお茶大で6割弱、法政（政治学）で約7割、朝鮮が植民地であったことを知っている学生（「朝鮮北部」または「朝鮮南部」に○をつけたもの）はお茶大で7割弱、法政（政治学）で8割強であった。正解を「台湾・中国東北地方・朝鮮北部・朝鮮南部」とするなら、正解率はお茶大で17.2%、法政（政治学）で26.4%である。これは余りに低すぎる、と筆者達は思う。どうやら、中国に対して特殊な思い入れがあって関心が高いことは、裏を返せば、他の近隣アジア諸地域への関心が非常に低い——言ってみれば、「中国を見てアジアを見ない」ことにもなっているらしいのである。

### 3. 事件への対応

以上で見たような中国観を持つ学生は、89年の

中国の事態に対してどの様に対応するのだろうか。

前述のように、政治的関心が薄いということになっている今の学生も、去年の中国の状況には、高い関心を示している。6月4日の[10]天安門事件についても、事件を「知らない」学生は両大学でわずかに1名、「興味ない」もごく少なかった。[9] 民主化運動については、「断然支持する」としたものと「気持ちはわかるが方法がまずい」としたものとで8割を超え、ほとんどが運動に一定の理解を示している。[10]「天安門事件」についても7割以上の学生が「武力弾圧はもってのほか」として「学生のやり方に問題があった」はわずかであり、全体的に運動側に共感する立場が見える。では、この「もってのほか」の行動を取った中国政府にどう対応するのか。[11]「日本政府はどのような態度を取るべきか」では、「積極的に学生を支援」あるいは「借款等のテコ入れ」という積極的な態度を取るべきだとするものはそれぞれ余り多くない。「日中の歴史的関係を踏まえ内政干渉は慎む」が最も多く、これと「弾圧への抗議のため制裁措置をとる」とで7割強になる。運動側を支援すべきだという意見（aまたはb）は4割を超えるとはいえ、運動への共感が政府への態度とストレートに結び付かないところに日中関係の「特殊性」がはの見える。これによると、欧米諸国に比べていまひとつ煮え切らない日本政府の対応は、一部ではかなり批判も受けたが、概ね容認されていたということになる。

項目間の関連についてみると、[9]で民主化運動を「断然支持」としたものは[11]で「学生支援」および「制裁」の頻度が高く、[9]で「気持ちはわかる」ものは[11]で「内政干渉は慎む」の頻度が高いが、その関連は余り強くはない<sup>(16)</sup>。こうした事件への対応のあり方と日頃の中国への関心とはどう関連しているのかを見るため、中国への関心[1]、好き嫌い[4]、現代中国に関する知識[7][8]、今後の見通し[12][13][16]等と、[9][11]

(10)

との関連を見てみよう。まず、[1]関心・[4]好き嫌いと[9]・[11]との間にはそれぞれ関連があるとは思えない。[7]首相・[8]総書記を知っている学生の[9]・[11]での選択も特に偏差は見出せない。[9]と[12]近代化・[13]民主化・[16]対中投資、[11]と[13]民主化・[16]対中投資との間にはとりたてて関連がみられない。ただし[11]で中国政府寄りの選択肢（bよりc，cよりd）を選んだものほど[12]近代化の展望が明るい傾向がある<sup>(17)</sup>。一言でいうなら、[9][11]にみえる中国の状況に対する対応は、（[11]と[12]の関連を別として）中国への関心[1]，好き嫌い[4]，知識[7][8]，今後の見通し[12][13][16]のいずれの項目とも関連はあまりみられないのである。

また、[11]中国政府への対応で「日中の歴史的関係より内政干渉的なことは慎む」を選択した学生には、当然より確かな日中関係史の知識を持っているものが多いと考えられた。しかしこの集団の[6]植民地についての正解率を見る限り全体と特に変わりはなく<sup>(18)</sup>，この調査からはより確かな歴史知識を持つがゆえにこう回答したとは考えにくい。むしろ、これを選んだ学生は、どちらかといえば、中国への[1]関心は少なく、[7][8]現代中国についての知識も少なく、[9]民主化運動に「ついていけない」と答えたもの、[10]「天安門事件」に「興味ない」と答えたものが多く含まれていた<sup>(19)</sup>。日本が過去に中国侵略を行ったのは事実であり、それゆえ内政干渉は慎むべきだという意見はたしかに説得力を持っている。しかし、この調査結果からみると、「天安門事件に当たって、日本政府の中国政府への対応は慎重を要する」とした意見は、実のところ、無関心・無責任によるものであった可能性が大きい。調査では「天安門事件に対してあなたはどうしますか」という設問は設けていないが、以上の分析は、日本人の中国政府への抗議行動が各国に比して低調だったことを説明していると思われる。

ここに見えるような対応のしかたは、中国問題に限ったものではないという言い方もできようが、先にみた中国への関心の高さや運動への共感を考えあわせるとき、一種異様ではある。現代の学生は日頃の中国への関心や心情とは別のところで、目の前で起こっている事態に反応しているということかもしれない。

#### 4. 今後の展望——対中投資への期待観のありか

次に、今後の中国及び日中関係の展望についてみてみよう。

[12]四つの近代化や[13]民主化の展望についての見通しは厳しい。[12]近代化が速やかに実現するとするものは1%以下で、「非常に困難」が「徐々に実現」を上回る。[13]民主化が「速やかに実現」するとするものはゼロ、「現政権下」あるいは「現体制下」では不可能とするものが7割以上である。この両者には関連がみられ、[13]民主化の展望を厳しいとみるものほど[12]近代化も困難とする傾向がある<sup>(20)</sup>。[16]対中投資の展望については、[12]近代化と同様、88年より厳しい見方をするものが増えているが、しかし「むしろ悲観的」「大いに悲観的」といった答はほとんど増えておらず、「少しは将来性がある」とした学生は3割以上である。これは民主化の展望に対する非常に悲観的な見方や近代化の展望について厳しい見方をするものが大きく増えたこととは多少異なっているように思われる<sup>(21)</sup>。

クロス集計をみると、88年調査では[16]対中投資の展望は、当然予想されるように、[12]四つの近代化の展望との間で関連がみられたが（表2）、同時に[12][16]の両項目は[4]好き嫌いとも関連があった<sup>(22)</sup>。すなわち、中国が好きの人ほど近代化・対中投資への期待感が高かった。ところが、89年になると、全体的に[16]対中投資への期待感が下がると共に、[12]近代化の展望との関連はほ

とんどなくなりましたが(表3), 依然として中国に[1] 関心の高いもの, 中国が[4] 好きなものほど[16] 対中投資に対して高い期待感を示していた<sup>(23)</sup>

(表4)。さらには, [2] 関心で「歴史」「シルクロード」を選んだもの, [4] イメージを「豊かな伝統」としたのも, 全体よりも高い[16] 対中投資への期待感を見せた<sup>(24)</sup>。つまり, 対中投資が有望であると思うのは, 中国が順調に近代化していくであろうという見通しに立つ合理的な判断よりも, 歴史やシルクロードに興味を持つ, 中国が好きな人の情緒的期待感に引きずられている要素が強いのである。どうやら, 「中国への特殊な思い入れ」は, われわれに, 中国の状況を客観的態度で認識し, 冷静に判断し対応することを難しくさせているようである。このような中国への期待感のあり方は, 合理的見通しすらなしに(あ

表2

[12]近代化の展望

	a	b	c	d	e	f	計
[16] 対中投資の展望	2	36	5	1	13	0	57
a	0	49	8	1	18	0	76
b	0	28	17	0	9	0	54
c	0	1	3	1	1	0	6
d	0	0	0	0	1	0	1
e	0	21	0	0	37	0	58
f	0	4	1	0	3	0	8
無効	2	139	34	3	82	0	260
計							

88年調査(お茶大)

※「四つの近代化」を知っているもののみについて表にした。

表3

[12]近代化の展望

	a	b	c	d	e	f	無効	計
[16] 対中投資の展望	0	8	12	0	6	0	0	26
a	1	43	34	1	9	2	1	91
b	0	43	52	2	15	0	1	113
c	0	2	5	2	0	0	0	9
d	0	1	0	0	0	0	0	1
e	0	12	15	0	16	0	0	43
f	0	0	1	0	0	0	0	1
無効	1	109	119	5	46	2	2	284
計								

89年調査(お茶大)

表4

[4]好き嫌い

	a	b	c	d	e	無効	計
[16] 対中投資の展望	3	15	7	1	0	0	26
a	4	33	44	10	0	0	91
b	3	28	78	3	1	0	113
c	0	3	5	1	0	0	9
d	0	0	1	0	0	0	1
e	1	12	29	0	1	0	43
f	0	0	1	0	0	0	1
無効	11	91	165	15	2	0	284
計							

89年調査(お茶大)

れば許されるというものではないが)「広大な中国市場」への侵略を繰り広げた戦前の日本とつながっているようにも思われる。

### 5. 外国人労働力の受け入れには肯定的

調査に際しては, 対中国のみの問題ではないが, 「就学生」や偽装難民問題にみられるように, 日中関係さらには日本の対外関係で大きな問題となりつつある[17] 外国人労働力の導入についての意見も調べてみた。調査が行われたのは偽装難民問題が起こってから75日ばかり経った頃であったが, 結果は, 「出稼ぎ希望者と雇用希望者がいるのだから受け入れればよい」が約3割で最も多く, これと「国際世論を考慮して受け入れるべきだ」に回答が集中した。また, 「その他」とした学生でも受け入れに賛成の意見の方が反対のものよりはるかに多く, 「制度を整備して受け入れるべきだ」というような意見が多く見られた<sup>(25)</sup>。逆に「外国人が増えると問題が起こるので受け入れるべきでない」は約1割, 「労働条件が低下するので受け入れるべきでない」はごくわずかであった。受け入れに伴って起こりうる問題点は, 選択肢の中で「労働条件の低下」「さまざまな問題が起きる」などと挙げておいたし, マスコミの報道などもあり, 一応こうしたものも考えに入れての回答と思われる。全体の約7割の学生が外国人労働力の受け入れに肯定的であり<sup>(26)</sup>, この問題については

学生は概ね肯定的な意見を持っていて, 閉鎖的な日本政府よりも「進んでいる」といえる。

今後, 日中の政府の人の移動についての「自由化」政策の進展にともなって, あるいはその引締め策にも拘らず, 日中間の人の交流がますます多くなり, 中国

人労働者の流入が増えるようなことがあれば、学生の外国人労働力の導入についての見方は変わっていくかもしれない。そのときには、先にみた「まだ見ぬ中国への憧れ」的な中国観も変化するのだろうか。

### おわりに

88年に学生の中国認識に関する調査を実施したわれわれは、6月4日の天安門事件の直後から、学生の中国観に何等かの変化があったはずだと考え、追跡調査の必要があると思っていた。しかし、一方で、明らかに悪化したであろう中国観を確認したところでどの様な意味があるのだろうかという思いも強かった。やがて、東欧諸国でも民主化運動が大きくなりとなり、彼の地では体制そのものが揺らぎ始める中で、この激動の89年の学生の中国認識を調査しておくことは、調査の継続性を確保するためにも必要であると考えにいたった。

結果は、予想とは異なって、むしろ日中交流の増大の中で定着した中国観の根強さを確認するものであった。我々の中国観の通奏低音のように存在し続けている根強い中国観とは、東洋文明の母国である中国への憧れとでも言える特殊な思い入れを伴っている。それは他のアジア諸地域に対する知識の乏しさと対照的である。こうした「中国への特殊な思い入れ」は、実のところ我々に中国に対して客観的な判断の上に立った理性的な対応を取ることを難しくさせていると思われた。

このように合理的というよりは情緒的というべき中国観が指摘できたのは、分析対象が女子大であったため、女子学生の特性からくるものだという意見もあるかもしれない。しかし、男子の方が多い法政大学政治学受講者についても基本的な傾向は共通していた。いや、社会科学的な見方についての訓練を受けているはずの政治学受講者においてすらそうしたものが見られたのであり、して

みるとこうした傾向は日本人全体に共通したものかとも思われる。

では、このような「中国への特殊な思い入れ」による客観的な判断力の欠如から、専門家たる中国研究者は自由であり得たのだろうか。多くの知識を持っているにも関わらず、否、むしろより強い中国への思い入れがあるが故に、理性的な対応の欠如は、中国研究者の場合、より強く現れることもあったように思われる。時代によってその形を変えながら存在し続けてきた「中国への特殊な思い入れ」はわれわれの中国とのかかわり方の歴史に根ざしたものである。それは頭から問題だと決めてかかれるものでもなければ、一朝一夕になくなったりするようなものでもない。しかし、今後、中国について考えるとき、我々の中国観がこのようなものだということを自覚しておく必要は大いにあると思われる。

### 〔注〕

- (1)88年調査は、選択式回答式・自由回答式の併用。お茶大の結果の大要は小浜・釜谷・伏見「アンケートにみる現代学生の中国認識」（『歴史評論』No.474,1989年10月）参照のこと。78年調査は、お茶大中国研究会によるもので、選択回答式18項目、回答者数282人。詳しくは同研究会「現代学生の中国認識を探る——アンケート調査を下に」（『中国研究』第100号、1979年）参照。
- (2)お茶大の88年の回答者の内訳は1年236人2年166人3年123人4年57人不明1人で、学部は文教育314人理124人家政145人である。89年は1年72人2年88人3年74人4年48人不明2人で学部は文教育192人理59人家政33人であり、2年生以上210人のうち66人は88年も回答していた。もちろんすべて女子学生である。
- (3)法政大学の88年の内訳は1年24人2年73人3年85人4年101人不明8人、性別は男189人女21人

- 不明81人で、学科は法学部政治学科211人同法律学科45人、他は経済・経営・文各学部の学生である。89年は1年49人2年59人3年120人4年63人不明8人、性別は男224人女51人不明24人で、学科は法学部政治学科177人同法律学科92人で他は同様である。また88年89年とも全体の半数弱は二部の学生である。
- (4)従って88年の結果は順不同で並べてあるが、便宜上、各項目は89年と同じ番号で表している。
- (5)中国に[1]関心が、「おおいにある」または「ある」としたものの計495人に、関心のある時代を問うた（複数回答）。結果は、a 古代～中世51.1%（29.9%）、b 清朝崩壊期～アヘン戦争～辛亥革命（1911年）18.5%（9.0%）、c 辛亥革命～日中戦争13.2%（9.0%）、d 社会主義中国誕生（1949年）後～文化大革命期15.3%（16.7%）、e 最近10年間42.0%（34.2%）。（カッコ内は、78年調査の同項目の結果である。）（88年・お茶大）
- (6)教科書問題を聞いたことがあるのは541人（92.8%）で、その集団に「中国側の反発をどう感じますか」とたずねた結果、a 当然の反応だ29.8%、b 中国側の立場は理解できる50.4%、c 内政干渉である5.0%、d 別に何も感じない3.8%、e その他2.7%であった。（88年・お茶大）
- (7)法政（政治学）では新たに設けた選択肢である「一党独裁の国」とした学生がかなりいて、「社会主義国」はあまり増えなかった。
- (8)[1]関心が、大いにある50人は、[4]a-8,b-27,c-14,d-1,e-0。c 関心のない28人は、[4]a-0,b-4,c-19,d-3,e-2。（89年・お茶大、以下特に記さない限り同様）
- (9)[4]好き嫌いで、a の11人のうち、[2]でk-8（◎は5）、d-11（◎-5）。b の91人のうち、[2]でk-48（◎-12）、d-50（◎-9）。
- (10)[1]関心で、a の50人のうち、[2]k-31（◎-10）、d-33（◎-6）、[3]e-16,d-12。
- (11)[1]でc の28人は、[3]a-10,b-0,c-1,d-6,e-3,f-0,g-1,h-3、無効4。
- (12)関心のある時代についての78年調査と88年調査の結果を比べると、10年間で古い時代ほど関心が高まっていることも、それを裏付けられると思われる。註5参照。
- (13)88年の、[3]a の32人は、[1]a-1,b-23,c-8,[4]a-0,b-7,c-24,d-1,e-0。89年の、[3]a の51人は、[1]a-6,b-35,c-10,[4]a-0,b-11,c-36,d-3,e-1。（両年ともお茶大）
- (14)[3]イメージでg の12人は、[4]a-0,b-1,c-8,d-3,e-0。ただし法政（政治学）では、やや異なった傾向があり、[3]でg の43人について、[1]a-20,b-20,c-3、また表1'参照。
- (15)「あなたは日中戦争をどのように考えますか」に対して、「日本国民が生きのびるためには仕方がなかった」1.2%、「日本の繁栄と日本によるアジア解放のための戦いであった」1.5%、「日本の帝国主義的侵略」70.7%、「わからない」23.5%、「その他」2.2%。また、以下の語句を知っているものは（カッコ内は78年）、「南京大虐殺」84.7%（43.2%）、「三光作戦」11.7%（4.7%）、「抗日民族統一戦線」64.0%（56.7%）。（88年・お茶大）
- (16)[9]でa の120人は、[11]a-15,b-47,c-45,d-2,e-7、無効6。b の122人は、[11]a-4,,b-39,c-58,d-8,e-6、無効7。
- (17)[11]でa の21人は、[12]a-1,b-9,c-9,d-0,e-0,f-2。b の95人は、[12]でa-1,b-28,c-44,d-1。c の123人は、[12]a-0,b-57,c-44,d-2,e-19,f-1。d の11人は、[12]a-1,b-6,c-4,d-0,e-0,f-0。
- (18)[11]でc とした123人のうち、[6]で正解（a・c・g・h）だったのは21人17.1%である。
- (19)同上の123人について、[1]a-17,b-91,c-15,[7]の正解は56人45.5%（全体では52.1%）、[8]の正解は22人17.9%（全体では23.6%）、[9]

(14)

- でdは3人(全体で4), [10]でeは6人(全体で9)。
- (20)[13]でbの59人のうち[12]a-0, b-40, c-8, d-0, e-9, f-1, 無効1。cの125人のうち[12]a-1, b-42, c-62, d-2, e-17, f-0, 無効1。dの87人のうち, [12]a-0, b-23, c-43, d-3, e-17, f-1. eの4人のうちa-0, b-2, c-2, d-0, e-0, f-0。
- (21)また, 法政(政治学)の学生は[12]近代化の展望および(13)民主化の展望についてお茶大の学生より厳しい評価をしているが, [16]対中投資の展望については明らかに逆の傾向が見える。
- (22)[4]でaの31人は[12]a-0, b-11, c-3, d-0, e-4(回答数18), [16]a-10, b-11, c-5, d-1, e-0, f-4。[4]でbの223人は[12]a-1, b-68, c-9, d-1, e-35(回答数114), [16]a-57, b-63, c-33, d-4, e-1, f-56, 無効9。dの7人では[12]b-2(回答数2), [16]a-1, b-1, c-3, d-0, e-0, f-2。eの2人は[12]d-1, e-1(回答数2)。[16]a-1, b-0, c-1, d-0, e-0, f-0。(88年・お茶大)
- (23)[1]でaの50人では[16]a-13, b-13, c-16, d-0, e-0, f-8。cの28人では[16]a-3, b-6, c-11, d-1, e-0, f-7。
- (24)[2]関心のある分野で, dを選んだ136人では[16]a-12, b-55, c-46, d-5, e-1, f-16, 無効1。kを選んだ137人では(16)a-10, b-53, c-55, d-3, e-1, f-15。また[3]イメージでeとした56人では[16]a-8, b-18, c-20, d-0, e-0, f-10。
- (25)この種の意見を書いているものは, お茶大で12名, 法政(政治学)で13名。
- (26)a またはc またはfを選んだ学生とgで肯定的な意見の書き込みのあったものの合計。法政(政治学)では6割以上である。

## 『中国研究月報』への投稿について

1. どなたでも自由に投稿できます。
2. 原稿は, 中国及びアジア地域に関する論文, 研究ノート, 資料, 書評などで未発表のものに限ります。
3. 原稿の標準枚数は, 400字づめ横書き用紙で論文は50枚, 書評は8枚, その他は30枚とします。
4. 原稿には, 投稿者の所属および連絡先(住所, 電話番号)を付記してください。
5. 採用された原稿は, すべて署名原稿として扱います。
6. 採用された原稿には, 当研究所の規定により薄謝を支払います。
7. 掲載された論文などの抜刷を必要とする場合は, 実費で作成します。
8. 原稿は採否にかかわらず返却しません。
9. 原稿の送付先, 連絡先           102 東京都千代田区飯田橋1-12-12

社団法人 中国研究所編集部 Tel 03-261-6298 FAX 03-261-8892

本誌の編集方針, 企画等に関しては, 下記編集委員会が審議しています。

1989年度編集委員会—委員長: 高橋 満/委員: 内田知行, 宇野和夫, 大里浩秋, 加々美光行,  
國谷知史, 小島晋治, 田畑佐和子, 辻 康吾, 並木頼寿, 山田辰雄, 若林正文